



# 清新二中だより

## 本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

## ふる 古 暦 初 暦

校長 白石 亨

クルリと端がめくり上がり、赤ペンの文字が書き込まれたカレンダーがある。

一年間の役割をまっとうした2022年のカレンダー。未だにスマートフォン等の電子端末での予定管理ができずにいて、恥ずかしながらスケジュール管理はもっぱら紙製の三角型立体の卓上カレンダーにたよっている。自宅の大掃除を終えた昨年暮れ、机上からつまみ上げてポイッとくず籠くずかごに放り込めばそれまでだが、メモ書きが目にとまり、多少しんみりとしてどことなく忍びなく、ついつい眺め出してしまった。

カレンダーの12月7日の枠には「マラソン大会」と書かれていた。

「よーいドン」とスターターピストルが鳴り響き、生徒が一斉に走り出す場面が思い浮かんできた。12月7日は全校生徒によるマラソン大会が開催された。走り出した生徒の顔はみんな真剣で力強かった。

マラソンは自己との戦いだと言われている。毎日の努力の積み重ねがものをいう競技だ。朝練習は本番の10日前から開始されたが多くの生徒が自主的に参加していた。この朝練習を見ていると〇〇君の走りが気にかかった。走るペースがかなり遅かったからだ。そのとき体育の先生がそっと耳打ちしてくれた。「校長先生、〇〇君は偉いんです。運動がとても苦手なんです。でも毎日欠かさず朝練習に参加して、決して歩きません。どんなに遅くてもいつも走り切ります。」と教えてくれた。〇〇君の走りがとても輝いて見えてきた。

同様に、上位入賞を目指す健脚組けんきやくぐみの生徒もとても頑張っていた。中には放課後、人知れず荒川の土手を継続的に走り込んでいた生徒もいたと聴く。生徒それぞれが、それぞれの立場の中で懸命に努力を重ねていた。

そう、清新二中生のよさは何ごとにも一所懸命に取り組めることだと思っている。

勿論、各教科の勉強も大切ではあるが、座学だけでは一人前の大人になることは難しい。その意味からも学校行事は、生徒の主体性や積極性を育み、他者と協調するなど、座学では得られない貴重な学びの機会となっている。行事に向き合い、一心不乱に取り組むことができる清新二中の生徒がとても誇らしく思えた。

またマラソン大会の際、沿道で見守ってくださったPTA本部役員、保護者の皆さんのたくさんの笑顔も思い出された。細やかな気配りと優しさ…本校PTA、保護者の方々が代々受け継いでくださっている温かな伝統だと思う。ご協力がとても有り難く感じられた。深く感謝しなくてはならない。

役割を終えようとする古いカレンダーには、清新二中のたくさんの善さと笑顔がギュッと詰まっていた。

取っておくべきか…との古暦ふるこよみへの未練を断ち切り、2023年の卓上カレンダーに据え換えた。

初暦はつこよみ 知らぬ月日は 美しく

この句は、昭和初期に活躍した小説家の吉屋信子さんのものである。おろし立てのカレンダーを前にして誰もが抱く期待をこんなにも素直に鮮やかに詠んだ句があるだろうか。真っ白なカレンダーが実に初々しいういうい。背筋がピンと伸びてくる。カレンダーの無垢の白さを前にして、身も心もリフレッシュされてくる。

そしてカレンダーがめくられ、3月ともなれば3年生はいよいよ卒業していく。2年生は最上級生となり、1年生は初めての先輩となる。生徒一人ひとりが新たな目標に立ち向かっていく一年間が始まっていく。

初暦はつこよみ。初暦の中にはまだ手のつかぬ一日一日が静かに眠っている。